

令和 2 年 6 月 25 日現在

機関番号：25502

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K11957

研究課題名（和文）スタッフナース対象のコーチングを取り入れた実習指導 e ラーニング教材の開発

研究課題名（英文）Development of clinical practice education e-learning introduced coaching for staff nurses

研究代表者

中谷 信江（NAKATANI, NOBUE）

山口県立大学・看護栄養学部・講師

研究者番号：40305800

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000 円

研究成果の概要（和文）：看護基礎教育における、実習指導者とスタッフナースの共同実習指導体制の「スタッフナースの実習指導」向上 e ラーニング教材開発に向けた基礎資料を得るため、「スタッフナースの実習指導」について、アンケート調査を実施し、教員及び実習指導者の役割期待、スタッフナース自身の役割認識と役割遂行を明らかにした。「スタッフナースの実習指導」に対する教員及び実習指導者の役割期待、スタッフナース自身の役割認識・役割遂行の実態が明らかとなった。本調査の結果をふまえ、現在 e ラーニング教材を検討している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で明らかになった実態を基に、実習指導者とスタッフナース共同指導体制におけるスタッフナースの実習指導 e ラーニング教材開発を行う。開発される教材をスタッフナースに提供することにより、指導体制の充実を図り、看護実践能力を獲得した看護師の輩出に貢献できる。

研究成果の概要（英文）：In this study, a questionnaire survey was conducted to obtain basic materials for developing clinical practice education for staff nurse. We clarified the role expectations of teachers and practical instructors and the role recognition/role fulfillment of staff nurses themselves. The role expectations of the teachers and the practical instructors and the role recognition and role fulfillment of staff nurses. We are developing e-learning materials based on the results.

研究分野：看護

キーワード：実習指導 スタッフナース 看護基礎教育

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

本邦において、看護基礎教育における実習指導体制は様々で、実習指導者のみが実習指導を行うのではなく、スタッフナースも実習指導を行う共同指導体制の実習指導体制（以下実習指導者とスタッフナースの共同指導体制）も多くある。このような状況で、実習指導者は実習指導に対して非常に困難を感じ（井上 2010、志田 2010、高橋 2009）、スタッフナースが実習指導に協力的でない、スタッフナースが実習指導をできない等の悩みを抱え、そのことに対しどうにか解決しようと工夫を凝らしている（中谷 2014）。一方、スタッフナースは、実習指導を行うものとしての教育が十分でなく、実習指導に不安を感じている（古川 2013）等の報告もある。そこで、現状を踏まえた「スタッフナースの実習指導」での課題を解決する支援の検討が必要であると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、実習指導者とスタッフナースの共同指導体制における「スタッフナースの実習指導」に対する教員と実習指導者の役割期待、スタッフナース自身の役割認識と役割遂行を明らかにし、スタッフナース対象の臨床でも学習可能で、楽しく学べ、実習指導への実践に結びつく「コーチングを取り入れた実習指導」eラーニング教材を開発するための基礎資料を得る。

3. 研究の方法

質問紙調査を実施した。

1) 対象者

A 県看内の看護師養成施設（准看護師養成施設・通信制は除く）20 施設の教員、200 床以上の病院 19 施設の看護師。医療機関の看護部長（施設長）へ調査を依頼し、協力の意思が得られた施設を対象に必要部数を郵送し、対象者への配布をし、個別での郵送返送とした。発送数は教員 102 部、看護師 310 部、返送数は教員 66 部、看護師 138 部であった。病院看護師の中から、実習指導者とスタッフナース共同指導体制の実習指導者とスタッフナースを抽出した。

2) 調査時期

2020 年 1 月～3 月

3) 調査内容

調査票は、中山ら（2015）、山田ら（2012）、Lani M,et.al（1988）らの実習指導者の役割に関する研究で用いられている調査項目 136 項目をもとに作成した。研究者間で質問表現検討、類似項目の削除等を行い、類似項目の削除し、研究者間で質問表現検討等を行い調査項目は 88 項目とした。役割期待・役割認識は、役割だと思うかに対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」の 4 択、役割遂行は、「行っている」「行っていない」の 2 択である。看護師の基本属性は、所属部署、性別、臨床経験年数、職位、所属する部署の実習体制等を調査した。

4) 解析・分析方法

調査内容ごとに単純集計し、基本統計量を算出した。実習指導の役割について、役割期待・役割認識については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人数割合、役割遂行は、「行っている」と答えた人数割合を算出した。統計ソフト SPSS を用いて実施した。

4. 研究成果

1) 研究協力者について

教員 66 名、実習指導者とスタッフナースの共同指導体制の実習指導者 29 名、スタッフナース 32 名であった。教員は経験年数 10.8±9.1 年、実習指導者は経験年数 12±6.5 年、スタッフナースは経験年数 13.8±9.7 年であった。

2) 「スタッフナースの実習指導」に対する教員と実習指導者の役割期待とスタッフナース自身の役割認識

<教員・実習指導者共に 90%以上が役割であると認識した項目>

表 1 に実習指導者とスタッフナースの共同指導体制における「スタッフナースの実習指導」役割期待（教員・実習指導者）とスタッフナース自身の役割認識を示す。

教員・実習指導者共に 90%以上が「スタッフナースの実習指導」役割であると認識した役割項目は、88 項目中 41 項目（表 1 項目 1～41）であった。

「どの学生にも平等に対応する」等の“学生の尊重”9 項目、「学生の学びの機会をできるだけ確保する」等の“学習の基本的な支援”10 項目、「学生が実施するケアを見守る」「学生が実施したケアの不足を補う」等の“ケアの指導・補足”5 項目、「実践の基本原則を確認する」等の“根拠に基づく指導”4 項目、“意欲的に取り組めるよう指導”3 項目、「物事をうのみにせず考えるよう学生に勧める」等“考え方の支援”1 項目、“役割モデル”4 項目、“実習にくる学生状況の把握”1 項目、“受け入れる雰囲気づくり”1 項目、“実習に関わる人との連携”の内“他スタッフや実習指導者との連携”の 3 項目であった。また、41 項目のうち 40 項目は、スタッフナース自身も 8 割強以上の人数が役割であると認識していたが、「最近の看護学生の一般的な特徴を把握する」はスタッフナース自身の役割認識人数割合は 71.9%であり、教員と実習指導者の役割期待人数割合（96.9%、96.6%）と最も差がみられた。

<教員又は実習指導者又はスタッフナースの 90%以上が役割であると認識した項目>

表1の項目42～項目65が、教員又は実習指導者又はスタッフナースの90%以上が役割であると認識した項目である。“学生の尊重”1項目、“学習の基本的な支援”3項目、“看護過程の支援”3項目、“根拠に基づく支援”3項目、“意欲的に取り組めるよう指導”2項目、“問題状況の確認と支援”2項目、“学生個々に合わせた指導”3項目、“役割モデル”2項目、“実習にくる学生状況の把握”4項目、“実習に関わる人との連携”3項目であった。教員の90%以上が役割と認識していた“実習にくる学生状況の把握”は、教員の役割期待人数割合とスタッフナース自身の役割認識人数割合と差が大きかった。

＜教員・実習指導者・スタッフナースが役割であると認識した割合が90%未満の項目＞

表2に、教員・実習指導者・スタッフナースが役割であると認識した割合が90%未満の項目を示す。“学生個々に合わせた指導”8項目、“問題状況の確認と支援”2項目、“学習方法の支援”4項目、“指導に関わる人との連携”の内“教員との連携”4項目、“実習にくる学生状況の把握”1項目、“実習環境の準備”2項目等であった。

3)「スタッフナースの実習指導」のスタッフナース自身の役割遂行

教員又は実習指導者又はスタッフナースの90%以上が役割であると認識した項目について、スタッフナース自身(22人)が実習指導役割を遂行している人数割合を表1の最右列に示す。スタッフナース自身の実施人数割合が6割を切った項目は10項目あった。教員、実習指導者共に90%以上が役割と答えた41項目の内、スタッフナースの実施率が最も低かった項目は「学生の学習状況や指導状況を実習指導者と共有する」の38.1%であった。

＜考察＞

今回の調査により、実習指導者とスタッフナースの共同指導体制において、教員、実習指導者、スタッフナースそれぞれの立場により、「スタッフナースの実習指導」に対する役割期待、役割認識が異なっている項目がみられた。また、「スタッフナースが実習指導」における自分自身の役割であると認識していても、遂行率が低い項目が多かった。それぞれの役割期待、認識が異なること、スタッフナース自身が役割認識していても遂行できないことは、実習指導体制の不備となり、学生教育に悪影響となる。各施設・各実習において、スタッフナースだけでなく実習指導者、教員の役割の確認と連携について話し合いの必要があると示唆された。

また、実習指導者とスタッフナースの共同指導体制における「スタッフナースの実習指導」のコアな役割も伺えた。教員や実習指導者の役割期待又はスタッフナースの役割認識の人数割合が90%以上であった“学生の尊重”“学習の基本的な支援”“ケアの指導・補足”“根拠に基づく指導”“意欲的に取り組めるよう指導”“考え方の支援”“役割モデル”“実習にくる学生状況の把握”“受け入れる雰囲気づくり”“他スタッフや実習指導者との連携”は、実習指導者とスタッフナースの共同指導体制における「スタッフナースの実習指導」のコアな役割あると考えられた。一方、90%未満であった“学生個々に合わせた指導”“問題状況の確認と支援”“学習方法の支援”等は「スタッフナースの実習指導」役割としては検討する必要がある。

「スタッフナースの実習指導」のコアな役割は、スタッフナースの教育支援に活用することが可能である。特に、“実習にくる学生状況の把握”は教員の役割期待の人数割合に比べ、スタッフナースの役割認識人数割合が少なく、特に重点化する必要があると考えられた。本調査の結果をふまえ、現在eラーニング教材を検討している。

表1 「スタッフナースの実習指導」に対する役割期待と役割認識(90%以上)と役割遂行

	質問項目	役割の要素	役割期待		役割認識	役割遂行
			教員(%)	実習指導者(%)	スタッフナース(%)	スタッフナース(%)
1	どの学生にも平等に対応する	学生の尊重	100	100	93.8	95.2
2	うなずくなどして話を聞いていることを伝える	学生の尊重	100	100	96.9	95.2
3	学生の発言を遮ることなく最後まで聴く	学生の尊重	100	100	96.9	95.2
4	学生が話してくる事実や出来事の詳細について受け止める	学生の尊重	98.5	100	100	90.5
5	学生の意見を真剣にきく	学生の尊重	98.5	100	96.9	95.2
6	学生に気軽に助けを求めよう勧める	学生の尊重	98.5	96.6	87.5	85.7
7	学生の想いを受け止める	学生の尊重	96.9	100	100	90.5
8	学生の考えを引き出す	学生の尊重	95.4	100	90.6	57.1
9	「学生さん」ではなく名前と呼ぶ	学生の尊重	90.6	100	93.8	85.7
10	学生の学びの機会をできるだけ確保する	学習の基本的な支援	95.4	100	100	90.5
11	学生にとって初めての経験がうまくいよう確認する	学習の基本的な支援	96.9	100	90.6	76.2
12	新しいことまたは困難な状況においては、助けやアドバイスを提供する	学習の基本的な支援	100	100	100	95.2
13	情報収集を支援する	学習の基本的な支援	92.3	96.6	93.8	81
14	学生自身が考えられるよう必要な情報を提供する	学習の基本的な支援	98.5	93.1	90.6	71.4
15	学生からの相談に応じる	学習の基本的な支援	92.3	100	96.9	85.7
16	学生からの質問に答える	学習の基本的な支援	98.5	100	93.8	100
17	学生の理解状況に関心を示す	学習の基本的な支援	98.5	96.6	96.9	90.5
18	学生がなぜそう考えたのかその理由を確認する	学習の基本的な支援	98.5	100	96.9	90.5
19	実習の展開経過においてタイミングよくアドバイスをする	学習の基本的な支援	90.8	100	84.4	47.6
20	学生が実施するケアを見守る	ケアの指導・補足	100	93.1	90.6	76.2
21	実習において援助すべきケアの手本を示す	ケアの指導・補足	96.9	96.6	93.8	71.4
22	学生が実施したケアの不足を補う	ケアの指導・補足	100	96.6	87.5	81
23	実施したケアについて学生と共に振り返る	ケアの指導・補足	98.5	96.6	96.9	66.7
24	ケアの根拠を説明する	ケアの指導・補足	96.9	93.1	84.4	71.4
25	実践の基本原則を確認する	根拠に基づく指導	95.4	92.6	87.5	66.7
26	要点をおさえて助言する	根拠に基づく指導	100	100	100	90.5
27	根拠に基づき助言する	根拠に基づく指導	98.5	100	100	95.2
28	具体例を示しながら説明する	根拠に基づく指導	93.8	96.6	90.6	71.4
29	学生の実習を助け励ます間いかけをする	意欲的に取り組めるよう指導	93.8	100	96.9	76.2
30	問題を指摘するだけでなく学生がうまくできたところを伝える	意欲的に取り組めるよう指導	98.5	100	93.8	95.2
31	学習意欲が高まるような言葉かけやコメント(記録)をする	意欲的に取り組めるよう指導	93.8	96.6	93.8	95.2
32	物事をうのみにせず考えるように学生に勧める	考え方の支援	90.8	96.6	96.9	66.7
33	学生が看護の役割を理解できるように支援する	役割モデル	100	100	93.8	95.2
34	看護師としての役割モデル(ロールモデル)となる	役割モデル	98.5	96.6	87.5	61.9
35	学生が専門職の責任について理解できるよう支援する	役割モデル	95.4	93.1	93.8	81
36	ケアの効果や看護の素晴らしさを実感できるように導く	役割モデル	98.5	93.1	84.4	61.9
37	最近の看護学生の一般的な特徴を把握する	実習にくる学生状況の把握	96.9	96.6	71.9	51.7
38	学生を受け入れる病棟の雰囲気づくりを行う	受け入れる雰囲気づくり	95.4	93.1	93.8	90.5
39	受け持ち患者についての情報を実習指導者と共有する	指導に關わる人との連携	100	96.6	90.6	52.4
40	学生の学習状況や指導状況を実習指導者と共有する	指導に關わる人との連携	96.8	96.6	84.4	38.1
41	学生指導に關わる実習指導者やスタッフを支援する	指導に關わる人との連携	93.8	93.1	87.5	81
42	学生の自由な意見交換を認める	学生の尊重	83.1	100	87.5	81
43	学生の行動や考え方をうまく修正する	学習の基本的な支援	92.3	86.2	90.6	66.7
44	学生に知識を伝える	学習の基本的な支援	89.2	100	84.4	76.2
45	学生が理解するまで根気よく説明する	学習の基本的な支援	76.9	93.1	81.3	76.2
46	看護過程の記述に関する役に立つ意見を提供する	看護過程の支援	86.2	96.6	90.6	61.9
47	学生のアセスメント・評価内容を確認し助言する	看護過程の支援	81.5	93.1	90.6	85.7
48	学生が立案した看護計画を確認し調整する	看護過程の支援	81.5	89.7	93.8	71.4
49	学生が計画を修正できるように具体的に助言する	根拠に基づく指導	89.2	93.1	87.5	76.2
50	看護に対する自己の考えも示し指導する	根拠に基づく指導	89.2	93.1	81.3	66.7
51	学生の学習意欲の維持・向上に努める	意欲的に取り組めるよう指導	87.7	96.6	87.5	76.2
52	学生に日々の振り返りを促す	問題状況の確認と支援	95.5	79.3	90.6	85.7
53	学生が学習の方向性を見出せるよう助言する	問題状況の確認と支援	78.5	96.6	78.1	81
54	学生の良いところや不足部分を把握する	学生個々に合わせた指導	92.3	86.2	87.5	66.7
55	学生の能力や準備に応じた指導を行う	学生個々に合わせた指導	86.2	89.7	90.6	81
56	学生が自分の学習ニーズや目的を明らかにすることを助ける	学生個々に合わせた指導	78.5	75.9	90.6	57.1
57	学生の興味をひくように熱意をみせる	役割モデル	93.8	89.2	71.9	42.9
58	専門職としての看護を目指せるように導く	役割モデル	89.2	79.3	90.6	66.7
59	実習目的・目標・進め方を確認する	実習にくる学生状況の把握	93.8	89.7	84.4	90.6
60	今回受け入れる学生の特徴を把握する	実習にくる学生状況の把握	92.3	86.2	71.9	45
61	学生に実習させるべき技術項目を確認する	実習にくる学生状況の把握	92.3	86.2	75	76.2
62	学生がこれまでに経験した実習内容を確認する	実習にくる学生状況の把握	83.1	93.1	78.1	42.9
63	実習における自分と教員の役割について実習指導者に確認する	指導に關わる人との連携	93.8	79.3	71.9	23.8
64	問題発生時に実習指導者や看護師長や教員と対策を検討する	指導に關わる人との連携	89.2	87.9	90.6	66.7
65	学生の学習状況や指導状況を他のスタッフと共有する	指導に關わる人との連携	89.2	86.2	90.3	57.1

表2 「スタッフナースの実習指導」に対する役割期待と役割認識(90%以下)

	質問項目	役割の要素	役割期待		役割認識
			教員(%)	実習指導者(%)	スタッフナース(%)
1	学生の特徴を見極めそれに合わせて指導をする	学生個々に合わせた指導	80	86.2	84.4
2	学生の目標達成状況に応じて指導の優先順位を決定する	学生個々に合わせた指導	78.5	89.7	84.4
3	学生個々の学習課題に基づき指導をする	学生個々に合わせた指導	78.5	82.1	84.4
4	学生の実習目標達成度を把握する	学生個々に合わせた指導	76.9	89.7	78.1
5	学生に期待されていることや求められていることを明確に示す	学生個々に合わせた指導	72.3	72.4	77.4
6	達成・未達成の目標を学生と共有する	学生個々に合わせた指導	71.9	82.8	68.8
7	学生の行動を注意深く観察し些細な変化に気づく	学生個々に合わせた指導	69.2	79.3	75
8	学生の状況に応じてより高いレベルに到達するよう働きかける	学生個々に合わせた指導	64.6	79.3	71.9
9	問題解決のための方法を学生とともに考え提案する	問題状況の確認と支援	89.1	86.2	84.4
10	学生が自己評価できる機会をつくる	問題状況の確認と支援	73.8	82.8	75
11	自己学習に活用できる資源(人や物、情報や文献)を提供する	学習方法の支援	69.2	51.7	58.3
12	学生が臨床状況に理論を適用することを支援する	学習方法の支援	61.5	69	75
13	自己学習に活用できる関連文献の活用を促す	学習方法の支援	60	44.8	50
14	予習課題を提示する	学習方法の支援	60	58.6	50
15	学生の学習状況を教員と共有する	指導に関わる人との連携	84.8	72.4	68.8
16	患者の反応や評価を教員と共有する	指導に関わる人との連携	84.8	82.8	71.9
17	実習指導方針について教員に確認する	指導に関わる人との連携	79.7	65.5	53.1
18	教員と指導計画を調整し役割分担をする	指導に関わる人との連携	76.9	58.6	50
19	実習期間中、指導に専念できるよう業務内容を調整する	業務内容の調整	70.8	79.3	59.4
20	学生がどのような科目を習ってきたかを確認する	実習にける学生状況の把握	84.1	79.3	71.9
21	学生の記録場所やカンファレンス場所を確保する	実習環境の準備	73.8	79.3	59.4
22	学生が使用する物品の確認・整備する	実習環境の準備	66.2	72.4	46.9
23	客観的に学生の評価を行う	学生評価	72.3	89.7	84.4

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 佐々木満智子、中谷信江、井上真奈美、藤本美由紀、家入裕子、白蓋真弥、丹佳子	4. 巻 11
2. 論文標題 看護学臨地実習で実習指導者がとらえた実習指導のやりがい	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 山口県立大学学術情報	6. 最初と最後の頁 67 - 72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤本 美由紀 (Fujimoto Miyuki) (70448801)	山口県立大学・看護栄養学部・講師 (25502)	
研究分担者	井上 真奈美 (河口真奈美) (Inoue Manami) (20285357)	山口県立大学・看護栄養学部・教授 (25502)	
研究分担者	丹 佳子 (Tan Yoshiko) (70326445)	山口県立大学・看護栄養学部・教授 (25502)	
研究分担者	家入 裕子 (Ieiri Yuko) (20716584)	山口県立大学・看護栄養学部・講師 (25502)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	佐々木 満智子 (Sasaki Michiko) (10735690)	山口県立大学・看護栄養学部・助教 (25502)	
研究 分担者	白蓋 真弥 (Shirafuta Maya) (20807317)	山口県立大学・看護栄養学部・助教 (25502)	